著者プロフィール

大獄青児（おおたけ･せいじ）

昭和12年１月１日　東京に生まれる。（本名一昭）
昭和41年　春燈に入門、安住敦・成瀬櫻桃子に師事。
昭和50年　春燈賞受賞。
昭和58年　句集『遠嶺』にて第6回俳人協会新人賞受賞。
平成15年　春燈退会。
平成16年　「瀝」創刊、代表同人。

俳人協会幹事。塔の会会員。
句集『遠嶺』『桐の花』『大獄青児集』

〈句集『笙歌』より転載〉〈2007年7月8日時点〉

『笙　歌』（自選十五句）

大獄　青児

声断ちて欅は冬の木となれり
うぐひすやあらがねの香の山の水
万葉の風立つ蓬摘みにけり
大風の吹きをさまりし田螺かな
みづいろの夢のつづきの切子かな
清明の波打ちのべし上総かな
橋の灯の近江へ通ふ夜涼かな
鎌倉の波に力や棕櫚の花
波郷忌や双手に叩く松の幹
妻の墓までの坂みち枇杷の花
がさ市や闇のはづれのすみだ川
雨気すこし残して鬱金ざくらかな
清方のをんな灯ともす酔芙蓉
大寺を出て一本の月の道
ゆつくりと冬の囲める伽藍かな